

第1回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

- ◇開催日時 平成29年7月9日(日) 13時～17時
- ◇会場 森と水の源流館
- ◇参加者 尾上・木村・上西・成瀬・前羽(以上、森と水の源流館)
島(郡山西小)、新宮(平城小)、竹田(金橋小)、黒木(安楽川小)
北村(御所市教育委員)、中澤敦(きんき環境館)
守部・中澤静(奈良教育大学) 13名

◇内容 授業の構想

(1) 平城小学校4年生総合的な学習の時間

現状: 日本バラタナゴを飼育している。

テーマは「水」にしたい。

森と水の源流館への遠足は決定している。

検討内容

- ・バラタナゴの池や学校に近い秋篠川について調査し、美しい川にするための意欲化を図りたい。

→水質調査はパックによる化学的調査よりも、指標生物による生き物調査の方がよい。化学調査はすぐに結果を得ることができるというメリットはあるが、その時間における調査結果を得るだけなので、検査時の水量などによる影響が大きい。

指標生物を用いた調査は、そのスキルを獲得できれば、これから出会う色々な川で、児童自身が主体的に行うことができる(化学調査では薬品の購入が必須)。

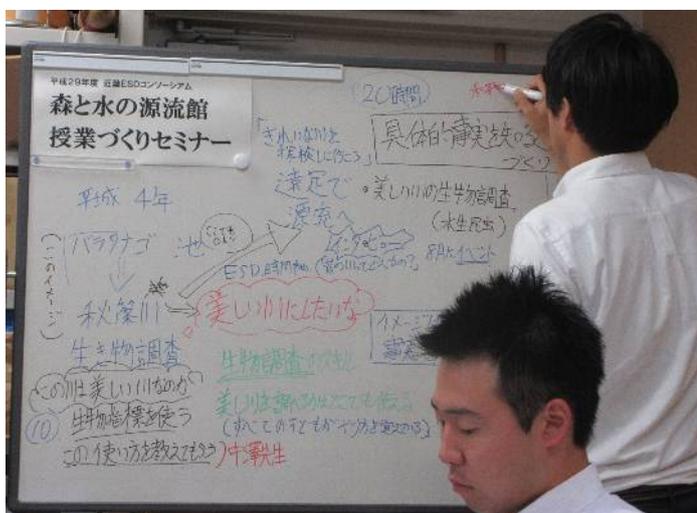
- ・秋篠川と吉野川をどうつなげるのか、吉野川に来る理由を明確にする。

→「美しい川」といっても、そのイメージが児童にはない。美しい川を景観だけでなく、調査結果というデータ(具体的事実)をもとにつかませる。

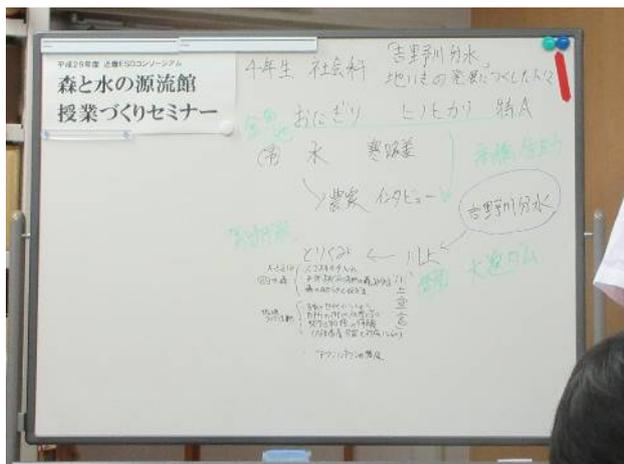
バラタナゴの池や秋篠川で生き物調査を行っておき、吉野川でも同様の調査を行い、比較する。

秋篠川での生き物調査時の支援者: 本田さん(源流館: 木村さんより)、川本さん(元済美小教頭)

森と水の源流館よりも下流域に100名程度が観察できる場所がある。



(2) 郡山西小学校 4年生社会科と総合的な学習の時間



単元：地域の発展に尽くした人々・吉野川分水

現状：校区が吉野川分水の北限に当たる。

水の恵みに着目させる。(奈良県産ヒノカキは食味検査で特Aを取得。美味しさ秘密は水)

検討内容

- ・社会科と総合との融合について
- 学習計画を2段構えにする。前半・社会科、後半・総合。

○社会科の学習内容について

地域の発展に尽くした人々がテーマであるので、吉野川分水が造られたことに焦点化する。

吉野川分水ができるまでの「水争い」の苦労などを、地域の農家にインタビューする。グループでインタビューさせた方が、子どもの心に残るので、効果的である。

高橋佐助の仕事

吉野川分水をつくるにあたって大迫ダム建設とそれに伴う

川上村の人々の苦労

降水量が多さは季節によって変動する。水がなくて農業に支障が出る時期もあったため、下流の和歌山の人々が反対する。また、ダム建設に伴う森林伐採や土砂の流入も問題となった。大迫ダム建設の目的を明らかにすることが重要。

吉野川分水によって、農業や暮らしがどのように変わったかをインタビューする。

○総合の学習内容について

吉野川分水による利便性は理解できた。それがおいしい米づくりにつながっていることから「水の恵み」に着目させ、いい水を下流に流すための川上村の取組に迫る。さらに、水を汚さないという行動化を促進する。

おにぎりを食べる → おいしい → おいしさの秘密 → きれいな水 → きれいな水はどこから → 川上村

川上宣言に着目：きれいな水を下流に流す

川上村の取組 村の95%が森林

きれいな水は元気な森から

大迫ダム建設時の開発に伴う土砂の流出→森を守ることの大切さにきづく

源流の森林を購入して保全する

人工林の手入れ・天然林を守る

教育：森の働きを伝える。

- ・森の恵みが姿を変えておいしいおにぎりになっている。





- ・自分たちも水を汚さない行動化
→ アクリルタワシのワークショップ
(保護者や地域を巻き込んで)
- ・他にはどんな行動化があるのか
→ 滋賀県の学校との交流 (きんき環境館のサポート期待)

(3) 生活科での展開のアドバイス

- ・どんぐりをもちいた工作
- ・バッタのかぶりもの 生き物調査
- ・安楽川小は桃の名産地 → 桃を用いた生活科の授業展開が望ましい
地元にある NPO とつながる

※次回は 8 月 6 日 (日) 13 時から

単元の主な展開を A4・1 ページに書いて持って来る。

